

2. かつらぎ町と 水道事業の概要

2. かつらぎ町と水道事業の概要

2.1 かつらぎ町の概要

2.1.1 自然的条件の把握

ア. 地勢・気候

本町は、和歌山県北部に位置し、北は和泉山脈、南は紀伊山地に囲まれ、東西 14.7km、南北 29.3km、面積 151.73km² となり、地図で見ると縦に細長い町となっています。

大阪府と結ばれている南北の幹線道路沿いには、艶やかに色づく果樹や串柿など四季折々の豊富なフルーツが味わえる観光農園、世界遺産に登録された丹生都比売神社、いにしえ人が郷愁に駆られた万葉の里、また、遊び心と夢いっぱいの観光施設や、都市では味わえない豊かな自然が満喫できる癒し空間があります。



図 2-1 かつらぎ町の位置図（和歌山県及びかつらぎ町）

イ. 地質

和歌山県の地質は、九州から関東まで1,000km以上にわたって続く日本最大の大断層である「中央構造線」を境に日本列島の地質構造は内帯（北側：日本海側）と外帯（南側：太平洋側）にわけられており、内帯と外帯では、岩石の分布・地形の様相は大きく変化します。

内帯と外帯とを区別するこの中央構造線は紀の川の北方、和泉、かつらぎ山脈の南麓を通っていますが、内帯には中生界上部白亜層系に属する堆積岩層の和泉層群が分布しています。外帯は北から古生界、中生界、新生界の地質にほぼ三等分され、この分布が和歌山県の特色となっております。

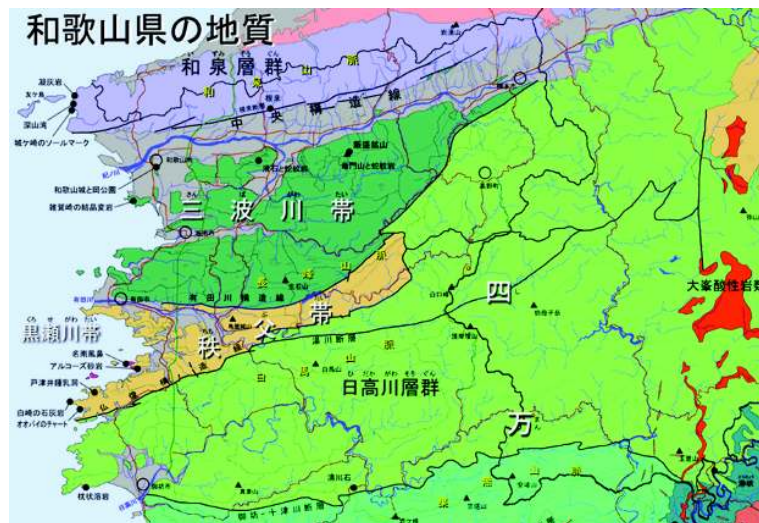


図 2-2 和歌山県の地質(出典：和歌山県)

ウ. 気象

和歌山県の気候は、全般に温帯な気候となっており、北部、中央部は、瀬戸内式気候帯（瀬戸内気候区）に属し、降水量は比較的少ないものの、年間の気温の高低差が大きく、南部は、内陸性気候（内陸山岳型気候区）の傾向も示しており、気温の変化が大きく冬季には降雪もみられます。年平均気温は、本町で14.7℃、和歌山市で16.1℃、潮岬で16.8℃となっています。

降水量は一般に冬少なく、夏多い型で、県北部の紀の川沿いでは、年間降水量 1,500mm 以下の少雨地域となっているのが特徴です。

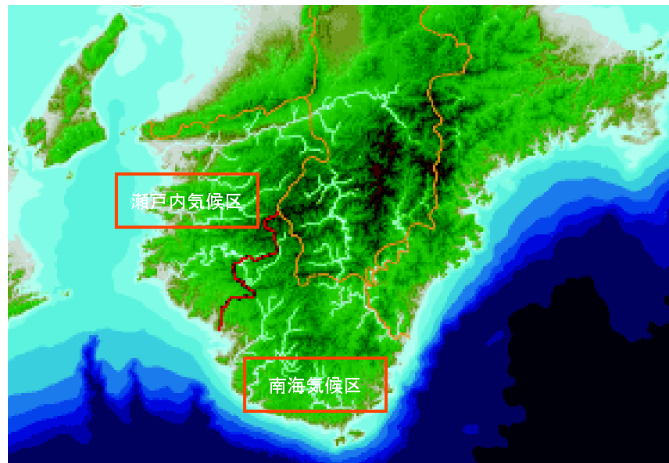


図 2-3 和歌山の気候（出典：和歌山地方気象台）

なお、北部、中央部は、日照時間が長く降水量の少ない瀬戸内気候区で、南部は内陸山岳型気候区に属し、気温の変化が大きく冬季には降雪もみられます。

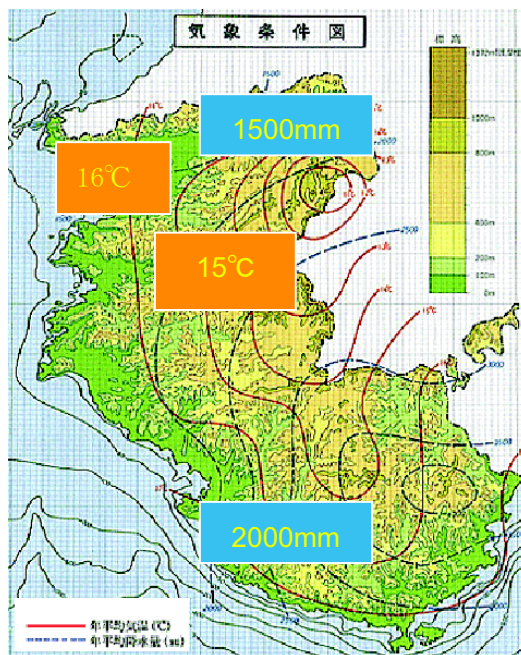


図 2-4 気象条件図（出典：和歌山県情報館 HP）

エ. 水資源

本地域には、世界遺産をはじめとして、緑深い森林、豊かな水資源をはじめとする恵まれた自然資源とその中で育まれた歴史・伝統・文化といった資源があります。

本町の市街地に近接する紀の川の源流は、日本有数の多雨地域である大台ヶ原を源にしている上に、上流部は源流から奈良県と和歌山県の県境まで約 70km を標高差 1,000m という急勾配で流れますが、中下流部はほぼ同じ距離を標高差 100m の比較的緩やかな勾配で流れます。そのため、紀の川は昔から氾濫を繰り返してきました。

また、本町は、紀の川流域両岸に山脈が迫っているため、平野部が少ない地域です。

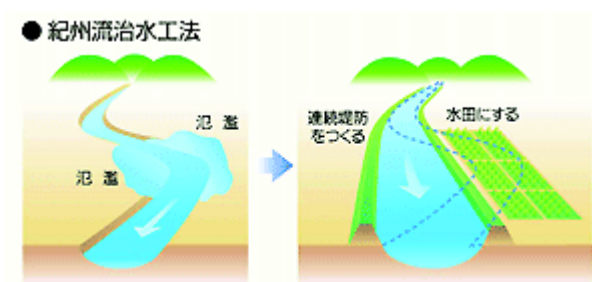


図 2-5 紀州流治水工法（出典：国土交通省）

なお、新城地区は貴志川上流域で、一方、花園地区は有田川上流域に当たり、急峻であるため紀の川同様、台風または大雨のときに氾濫を繰り返してきました。

オ. 災害等

本町は、東南海・南海地震の地震防災対策推進地域に指定されているとともに、中央構造線断層帯による直下型地震の発生も予測されており、これらを想定した対策が求められています。

また、本町では昭和28年(1953年)7月17日から翌18日朝にかけて梅雨前線による豪雨(南紀豪雨)が和歌山県北部地方を襲い、和歌山県の山間部では24時間500mm以上の雨量を記録しました。有田川上流のかつらぎ町花園(旧花園村)では大規模な山腹崩壊と土石流により中心集落が壊滅状態となりました。さらに、山腹崩壊が土石流を起こしただけではなく有田川を堰き止めた天然ダムが形成され、同年10月の台風で決壊し、溢れた水は復興に向かっていた下流地域で仮堤防を破壊して、再び水害を起こしました。この未曾有の水害は「紀州大水害」と命名されました。その後、昭和34年(1959年)の伊勢湾台風、昭和36年(1961年)第二室戸台風、平成10年(1998年)七号台風等による少なからぬ被害もありました。

今後とも、地球温暖化にともない集中豪雨による災害が発生する等、山間部には急峻な勾配で蛇行している小河川が数多くあり、災害が発生しやすい状況にあります。



写真 2-1 がれきに埋もれた花園村役場

2. 1. 2 社会的条件の把握

ア. 人口

本町の人口（外国人登録を含む）は、次のとおりです。

表 2-1 かつらぎ町の人口（平成 17 年国勢調査による）

項目	数	備考
人口	19,670 人	外国人を含む。
男	9,260 人	
女	10,410 人	
世帯数	6,609 世帯	

また、人口（注：旧かつらぎ町及び旧花園村を足し合わせた人口）は、平成12年（2000年）10月で20,945人から平成17年（2005年）で19,670人と5年間で1,275人減少しており、微減が続いています。国立社会保障・人口問題研究所によれば、和歌山県の人口は、平成17年（2005年）の人口を100としたときの人口の将来見通しとして、平成32年（2020年）に86.7%、平成42年（2030年）に71.2%になると推計しています。

また、上位計画である「かつらぎ町長期総合計画」では努力目標を加味して、平成24年（2012年）の人口を23,000人としています。次の図は、国勢調査に基づく本町の人口の推移（年齢別、男女別）です。

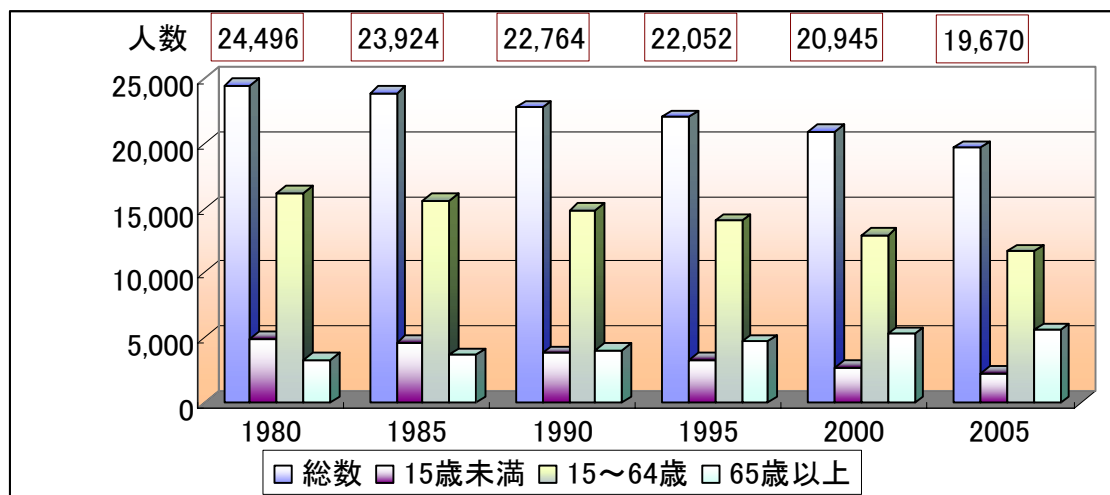


図 2-6 かつらぎ町における人口の推移（年齢別、男女別）（出典：国勢調査）

注：人口は、旧かつらぎ町及び旧花園村を足し合わせたものである。

表 2-2 かつらぎ町における人口の推移（単位：人）

和暦（西暦）	総数	15歳未満	15～64歳	65歳以上
S55(1980)	24,496	5,001	16,207	3,288
S60(1985)	23,924	4,635	15,607	3,682
H2(1990)	22,764	3,820	14,837	4,107
H7(1995)	22,052	3,290	14,054	4,708
H12(2000)	20,945	2,734	12,912	5,299
H17(2005)	19,670	2,328	11,699	5,643

注：旧かつらぎ町及び旧花園村を足し合わせた人口（出典：国勢調査）

イ. 人口密度

平成 20 年(2008 年)10 月 1 日の人口（かつらぎ町 18,780 人）と平成 19 年(2007 年)4 月 1 日の国土交通省国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」の面積（かつらぎ町 151.73km²）によりますと、本町の人口密度は 123.43 人/km²となります。ちなみに、町の人口密度ランキングをみますと、全国 800 町（平成 20 年 10 月 1 日現在）のうち、本町は第 397 位です。和歌山県内では、①137 位 湯浅町 676.01 人/km²、②148 位 美浜町 643.94 人/km²、③166 位 太地町 566.28 人/km²、また本町より人口密度が低い町では、761 位 古座川町 10.95 人/km²や、657 位 すさみ町、645 位 高野町、632 位 日高川町があり、本町は人口密度の高い方から 7 番目になります。

ウ. 土地利用

本町は、総面積が151.73km²あり、そのうち山林や農地などが70%以上占めている豊かな自然環境と豊富な土地資源を有する町です。和泉山脈、紀伊山地や裾野に広がる果樹園・農地などの豊かな緑は、心に豊かさを与えてくれる貴重な自然資源であり、水源の涵養や保水・防災など多様な役割を担う重要な環境資源ともなっています。

本町では、社会状況を踏まえ、各地域の特性を活かした住民主体のまちづくりが実現できるよう住民・企業・行政の協力のもと、総合的で計画的な土地利用の推進を図っています。

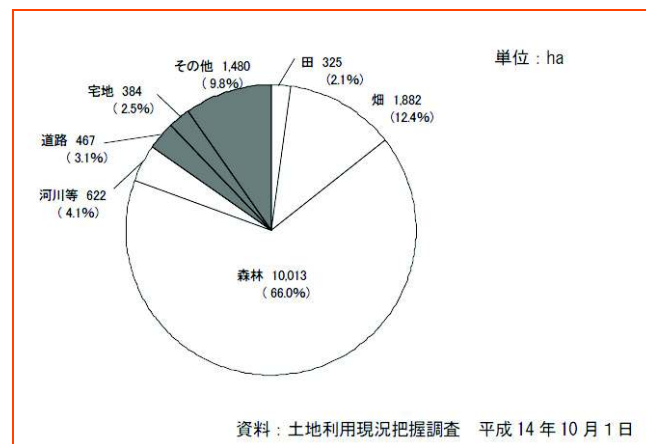


図 2-7 かつらぎ町の利用区分別面積（出典：かつらぎ町「新町まちづくり計画」）

エ. 産業構造

本町の産業別就業人口は、約半数がサービス業、卸売小売業（飲食業を含む）を中心とする第3次産業就業で、残り半数が第1次、第2次産業のほぼ同等数となっています。

平成12年における産業別就業者数は、次の表のとおりです。直近の傾向として第1次産業及び第2次産業はやや減少傾向にあり、それに反して第3次産業は増加傾向にあります。

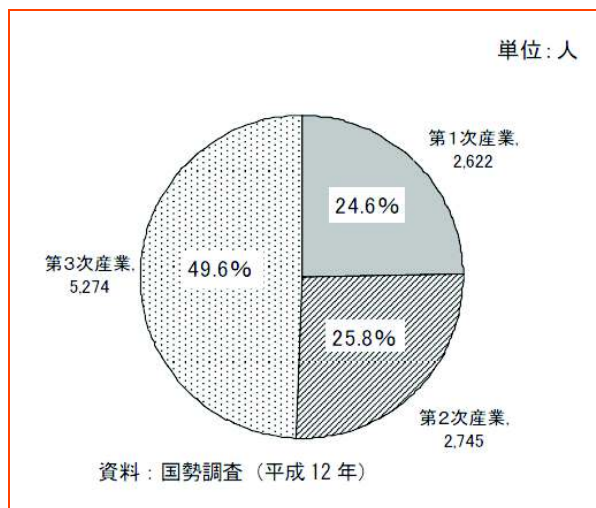


図 2-8 かつらぎ町の産業別就業者数 (出典: かつらぎ町「新町まちづくり計画」)

表 2-3 かつらぎ町における産業大分類別就業人口 (出典: かつらぎ町政要覧<資料編>)

産業大分類別就業人口

(10月1日現在 単位: 人)

産 業 別		平 成 12 年			平 成 17 年		
		計	男	女	計	男	女
総 数		10,358	5,864	4,494	9,991	5,580	4,411
第一次産業	農 業	2,565	1,240	1,325	2,566	1,269	1,297
	林 業	8	6	2	28	27	1
	漁 業	5	4	1	6	4	2
	計	2,578	1,250	1,328	2,600	1,300	1,300
第二次産業	鉱 業	7	7	0	8	7	1
	建 設 業	778	667	111	667	589	78
	製 造 業	1,897	1,209	688	1,566	1,031	535
	計	2,682	1,883	799	2,241	1,627	614
第三次産業	卸 売 小 売 業	1,611	772	839	1,258	591	667
	金 融 保 険 業	163	71	92	145	58	87
	不 動 産 業	27	19	8	30	20	10
	運 輸 通 信 業	514	455	59	427	379	48
	電 気 ・ ガ ス ・ 水 道 業	56	47	9	45	36	9
	サ ー ビ ス 業	2,195	973	1,222	2,732	1,179	1,553
	公 務	529	393	136	469	363	106
	計	5,095	2,730	2,365	5,106	2,626	2,480
分 類 不 能		3	1	2	44	27	17

●資料(国勢調査)

オ. 交通等

本町は、東西軸の国道 24 号線と南北軸の国道 480 号線が町のほぼ中心部で交差しており、京奈和自動車道が整備されることにより、ますます便利になります。旧かつらぎ町と旧花園村は、県道 115 号線が既に整備され、便利になりました。京奈和自動車道のうち、平成 18 年度から橋本市高野口町大野から紀の川市神領までの区間を紀北東道路として工事が進められており、国道 24 号の交通混雑の緩和、沿道環境の改善、地場産業の後押しといった地域の交流と産業振興支援の予定になっています。



図 2-9 かつらぎ町へのアクセス

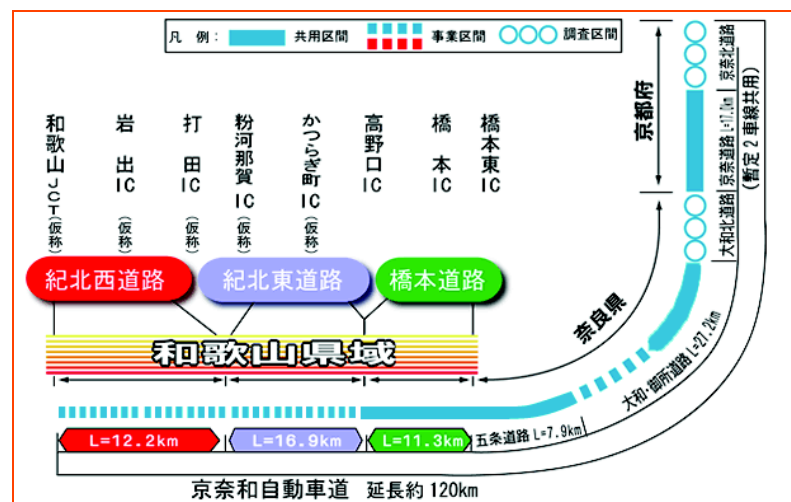


図 2-10 京奈和自動車道の概要

2.2 水道事業の概要

2.2.1 上水道事業の沿革

本町の上水道事業は、昭和27年(1952年)に中飯降簡易水道事業として誕生しました。その後、高田簡易水道、背ノ山簡易水道、佐野簡易水道、笠田簡易水道等完成により、昭和36年(1961年)1月、それら簡易水道事業4箇所を統合し、計画給水人口6,600人、計画一日最大給水量1,056 m^3 /日の能力により「笠田上水道事業」を創設しました。

「笠田上水道事業」は昭和36年(1961年)12月に、大谷、大藪、蛭子、丁ノ町、新田、妙寺、広野、西飯降、中飯降地区を給水区域として拡張し、計画給水人口14,600人、計画一日最大給水量2,190 m^3 /日の能力となり、翌昭和37年(1962年)4月に名称を変更し、「かつらぎ町上水道事業」として給水を開始しました。

以後、数次の変遷により未給水区域の拡張事業、簡易水道事業統合等を推進し、平成14年(2002年)11月に、第4次拡張事業を計画給水人口15,000人、計画一日最大給水量7,500 m^3 /日とし、東柏木、西柏木簡易水道を統合し、第6号取水井の増設を行い、水道の普及ならびに生活水の確保を図るために各施設の整備拡充し、安心・安定・持続・環境・国際を目標として水の需要に対応し、現在に至っています。

その水源としては、地下水(浅井戸)を取水源として、佐野浄水場(計画給水能力5,500 m^3 /日、取水井5箇所)及び妙寺浄水場(計画給水能力2,000 m^3 /日、取水井1箇所)の2浄水場により、町内中心地区に給水を行っております。



写真 2-2 かつらぎ町上下水道課庁舎及び佐野浄水場の全景

なお、本町の上水道事業の沿革は、次のとおりです。

表 2-4 かつらぎ町の上水道事業の沿革

年 月	給水人口・一日最大給水量	事 業 概 要
昭和36年(1961年)1月 笠田上水道事業創設	給水人口 6,600人 最大給水量 1,056m ³ /日	高田、背ノ山、佐野、笠田の各簡易水道事業統合（本町で初めての上水道事業）
昭和36年(1961年)12月 笠田上水道事業変更 (第1次拡張)	給水人口 14,600人 最大給水量 2,190m ³ /日	大谷、大薮、蛭子、丁ノ町、新田、妙寺、広野、西飯降、中飯降地区（給水区域の拡張）
昭和37年(1962年)4月 かつらぎ町上水道事業変更	給水人口 14,600人 最大給水量 2,190m ³ /日	上水道事業の名称変更
昭和47年(1972年)6月 かつらぎ町水道事業変更 (第2次拡張)	給水人口 14,600人 最大給水量 4,380m ³ /日	最大給水量変更
昭和54年(1979年)3月 かつらぎ町水道事業変更 (第3次拡張)	給水人口 15,000人 最大給水量 7,500m ³ /日	最大給水量変更、水源地増設
昭和57年(1982年)5月 上水道第3次拡張事業竣工	給水人口 15,000人 最大給水量 7,500m ³ /日	佐野浄水場完成にともない事務所を佐野1332番地の2に移転
平成4年(1992年)3月 水道整備基本計画策定	給水人口 15,000人 最大給水量 7,500m ³ /日	水道事業会計電子計算化（同年4月）
平成11年(1999年)4月 中飯降城山地区外拡張事業	給水人口 15,000人 最大給水量 7,500m ³ /日	給水区域拡張 （中飯降、城山地区及び高野口飛地）
平成14年(2002年)11月 (第4次拡張)	給水人口 15,000人 最大給水量 7,500m ³ /日	東柏木、西柏木簡易水道の統合 第6号取水井の新設
平成17年(2005年)4月 組織改革	給水人口 15,000人 最大給水量 7,500m ³ /日	都市計画課（下水道部門）との統合により上下水道課が発足
平成17(2005年)10月 かつらぎ町と花園村合併	給水人口 15,000人 最大給水量 7,500m ³ /日	
平成22年(2010年)3月	本町水道事業の水道ビジョン策定。	

2. 2. 2 簡易水道事業・飲料水供給施設・専用水道の沿革

本町の簡易水道事業は、旧かつらぎ町（当時伊都町）において昭和 27 年（1952 年）、中飯降東出地区に中飯降簡易水道事業として、一方、旧花園村において昭和 29 年（1954 年）4 月、花園梁瀬地区に花園梁瀬簡易水道事業として開設しました。昭和 28 年（1953 年）高田簡易水道事業、続いて昭和 30 年（1955 年）背ノ山簡易水道事業及び佐野簡易水道事業が完成しました。

昭和 33 年（1958 年）、伊都町、見好村、妙寺町が合併し、かつらぎ町となり、昭和 34 年（1959 年）には、笠田簡易水道、西柏木簡易水道、東柏木簡易水道、広浦簡易水道及び平沼田簡易水道の各事業が完成しました。

上水道事業の沿革で述べたとおり、旧かつらぎ町における簡易水道事業は、昭和 36 年（1961 年）1 月上水道事業が創設されるにあたり、「笠田上水道事業」（現かつらぎ町上水道事業）として統合されました。

昭和 39 年（1964 年）4 月、教良寺簡易水道事業及び大畑飲料水供給施設、昭和 43 年（1968 年）2 月、新城飲料水供給施設の給水がそれぞれ開始されました。昭和 45 年（1970 年）6 月渋田専用水道、昭和 48 年（1973 年）2 月、広口簡易水道事業の給水がそれぞれ開始されました。

昭和 55 年（1980 年）5 月、渋田簡易水道事業の給水が開始され、同年 8 月、平沼田簡易水道事業の経営が廃止され、渋田簡易水道事業に統合されました。

平成 13 年（2001 年）4 月、渋田簡易水道から上平沼田地区へ給水を開始するとともに、見好東部簡易水道事業が開始され、同年 8 月には、御所簡易水道事業の給水が開始されました。

平成 15 年（2003 年）4 月、天野簡易水道事業の給水を開始するとともに、大久保飲料水供給施設を公営企業として管理を始めました。

平成 17 年（2005 年）4 月、都市計画課（下水道部門）との統合により、上下水道課発足と期を同じくして、新城簡易水道事業の給水を開始するとともに東柏木及び西柏木簡易水道事業を上水道事業に統合し、同年 10 月、旧かつらぎ町と旧花園村の合併にともない、花園梁瀬簡易水道事業経営が上下水道課の業務として加わりました。

本町全体の水道事業等をまとめますと、現在、上水道事業 1 箇所、簡易水道事業 8 箇所、飲料水供給施設 18 箇所（大久保地区 1 箇所及び地元独自管理の地区 17 箇所）及び専用水道（自己水源のみ、平成 20 年度における確認時給水人口 194 人、1 箇所）となっており、安心・安定・持続・環境・国際を目標として水の需要に対応し、現在に至っています。

なお、本町の簡易水道事業・飲料水供給施設の沿革は、その概要を整理しますと、次のとおりです。

表 2-5 かつらぎ町の主な簡易水道事業・飲料水供給施設等の沿革

年 月	給水人口・一日最大給水量	事業概要等
昭和27年(1952年) 中飯降簡易水道事業創設	給水人口 人 最大給水量 $\text{m}^3/\text{日}$	中飯降地区に給水 昭和36年、上水道事業に統合
昭和28年(1953年) 高田簡易水道事業完成	給水人口 人 最大給水量 $\text{m}^3/\text{日}$	高田地区に給水 昭和36年、上水道事業に統合
昭和29年(1954年) 花園梁瀬簡易水道事業完成	給水人口 400人 最大給水量 $103\text{m}^3/\text{日}$	旧花園村地区に給水 緩速ろ過
昭和30年(1955年) 背ノ山簡易水道事業完成	給水人口 人 最大給水量 $\text{m}^3/\text{日}$	背ノ山地区に給水 昭和36年、上水道事業に統合
昭和30年(1955年) 佐野簡易水道事業完成	給水人口 人 最大給水量 $\text{m}^3/\text{日}$	佐野地区に給水 昭和36年、上水道事業に統合
昭和34年(1959年) 笠田簡易水道事業完成	給水人口 人 最大給水量 $\text{m}^3/\text{日}$	笠田地区に給水 平成17年、上水道事業に統合
昭和34年(1959年) 西柏木簡易水道事業完成	給水人口 400人 最大給水量 $60\text{m}^3/\text{日}$	西柏木地区に給水 平成17年、上水道事業に統合
昭和34年(1959年) 東柏木簡易水道事業完成	給水人口 400人 最大給水量 $60\text{m}^3/\text{日}$	東柏木地区に給水 平成17年、上水道事業に統合
昭和34年(1959年) 広浦簡易水道事業完成	給水人口 人 最大給水量 $\text{m}^3/\text{日}$	広浦地区に給水 平成17年、上水道事業に統合
昭和34年(1959年) 平沼田簡易水道事業完成	給水人口 人 最大給水量 $\text{m}^3/\text{日}$	平沼田地区に給水 昭和55年、渋田簡易水道事業に統合
昭和39年(1964年)4月 教良寺簡易水道事業完成	給水人口 400人 最大給水量 $60\text{m}^3/\text{日}$	教良寺地区に給水 平成16年、滅菌消毒から緩速ろ過へ
昭和39年(1964年)4月 大畑飲料水供給施設完成	給水人口 96人 最大給水量 $14\text{m}^3/\text{日}$	大畑地区に給水 滅菌消毒のみ
昭和43年(1968年)2月 新城飲料水供給施設完成	給水人口 97人 最大給水量 $15\text{m}^3/\text{日}$	新城地区に給水、平成17年、簡易水道に変更。滅菌消毒から膜ろ過へ
昭和45年(1970年)6月 渋田専用水道事業完成	給水人口 人 最大給水量 $\text{m}^3/\text{日}$	渋田地区に給水、昭和55年5月、簡易水道に変更。
昭和48年(1973年)2月 広口簡易水道事業完成	給水人口 500人 最大給水量 $100\text{m}^3/\text{日}$	広口地区に給水 滅菌消毒のみ
昭和55年(1980年)5月 渋田簡易水道事業完成	給水人口 2,290人 最大給水量 $584\text{m}^3/\text{日}$	渋田地区に給水 滅菌消毒のみ
平成13年(2001年)4月 渋田簡易水道事業拡張	給水人口 2,290人 最大給水量 $584\text{m}^3/\text{日}$	上平沼田地区に給水開始

年 月	給水人口・一日最大給水量	事業概要等
平成13年(2001年)3月 広口簡易水道事業完成	給水人口 391人 最大給水量 130m ³ /日	浄水方法の変更 膜ろ過
平成13年(2001年)4月 見好東部簡易水道事業完成	給水人口 1,170人 最大給水量 546m ³ /日	見好東部地区に給水 緩速ろ過
平成13年(2001年)8月 御所簡易水道事業完成	給水人口 183人 最大給水量 89m ³ /日	御所地区に給水 膜ろ過
平成15年(2003年)4月 天野簡易水道事業完成	給水人口 350人 最大給水量 155m ³ /日	天野地区に給水 急速ろ過
平成15年(2003年)4月 大久保飲料水供給施設管理	給水人口 100人 最大給水量 32m ³ /日	大久保地区に給水
平成16年(2004年)3月 教良寺簡易水道事業変更認可	給水人口 167人 最大給水量 50m ³ /日	浄水方法の変更 緩速ろ過
平成17年(2005年)8月 新城簡易水道事業完成	給水人口 160人 最大給水量 55m ³ /日	御所地区に給水 膜ろ過

注：給水人口及び最大給水量のブランク箇所は、データ不詳につき、記載しない。



写真 2-3 柿の木がある山間の風景

2.2.3 水道事業の概要

本町における上水道事業、簡易水道事業、飲料水供給施設（公営）、専用水道の概要は、次のとおりである。

表 2-6 かつらぎ町の水道事業等の概要

	上水道事業	簡易水道事業	飲料水供給施設	専用水道
計画給水人口 (人)	15,000	5,231	－	194
計画一日最大給水量 (m ³ /日)	7,500	1,712	32	－

注：専用水道は、平成 22 年(2010 年)4 月 1 日から上下水道課の所管となる。

ア. 上水道事業

本町の上水道事業はその水源を地下水に求め、昭和 37 年(1962 年)3 月に給水を開始しましたが、経済の発展にともない増加する水需要に対処するため、数次の統合及び拡張事業を行い、安定した供給を目指しています。

現在の水道ビジョン計画では、計画給水人口 15,000 人・計画一日最大給水量 7,500 m³/日となっています。なお、上水道事業の概要は、次のとおりです。

表 2-7 現在のかつらぎ町上水道事業の概要

浄水場名	佐野浄水場	妙寺浄水場	備考
所在地	かつらぎ町大字佐野 1332-2	かつらぎ町大字中飯降 1706-2	
水 源	地下水（浅井戸）	地下水（浅井戸）	
計画 一日最大給水量	5,500 m ³ /日	2,000 m ³ /日	
現況 一日最大給水量	7,500 m ³ /日(平成 14 年 11 月)認可値		
計画給水人口	15,000 人(平成 14 年 11 月)認可値		
現況 給水人口	13,644 人(平成 20 年度末)		
給水対象	笠田、佐野、大谷、丁ノ町他	丁ノ町、妙寺、中飯降他	
処理設備	塩素消毒	塩素消毒	
給水開始年月	昭和 37 年 4 月～	昭和 37 年 4 月～	
建設期間	昭和 54～56 年度	昭和 37～39 年度	

イ. 簡易水道事業・飲料水供給施設

本町の公営の簡易水道事業は、大久保飲料水供給施設 1 事業を含めて 9 事業があり、また、公営でない飲料水供給施設等は 17 箇所ある。旧かつらぎ町地区にある水道施設はすべて「かつらぎ町上水道事業」（計画給水人口 19,811 人）、また旧花園村地区にある水道施設は「花園簡易水道事業」（計画給水人口 520 人）として平成 28 年度（2016 年度）までにそれぞれ統合する予定にしています。

表 2-8 現在のかつらぎ町簡易水道事業全体（大久保飲料水供給施設を含む）の概要

事業名	簡易水道事業	飲料水供給施設	備考
事業数	8 事業	1 事業	
水 源	地下水（浅井戸）、表流水、湧水	表流水	
計画 一日最大給水量	1,712 m ³ /日	32 m ³ /日	
現況 一日平均給水量	1,744 m ³ /日		
	1,093 m ³ /日（平成 20 年度）		
計画給水人口	5,331 人（平成 21 年 3 月 31 日現在）		
現況 給水人口	4,206 人（平成 20 年度末）		
給水対象	広口、渋田、御所、天野、新城、 見好東部、教良寺、花園梁瀬、 花園久木の各地区	大久保地区	
処理設備	膜ろ過、急速ろ過、緩速ろ過、 塩素消毒	緩速ろ過、塩素消毒	
給水開始年月	昭和 29 年 4 月～	平成 7 年 7 月～	
建設期間	—	—	

なお、公営の簡易水道事業、飲料水供給施設の 9 事業は、次のとおりである。

- ① 広口簡易水道事業
- ② 大久保飲料水供給施設（簡易水道事業に含む）
- ③ 渋田簡易水道事業
- ④ 御所簡易水道事業
- ⑤ 天野簡易水道事業
- ⑥ 新城簡易水道事業
- ⑦ 見好東部簡易水道事業
- ⑧ 教良寺簡易水道事業
- ⑨ 花園梁瀬簡易水道事業（花園久木簡易水道事業を含む）

ウ. 水道事業の構成割合

本町における公営の水道事業は、上水道事業 74.2%（計画人口 5,001 人以上）、簡易水道事業 25.3%（計画人口 101 人以上、5,000 人以下）及び飲料水供給施設 0.5%（計画人口 100 人以下）から成り立っている。したがって、上水道事業は全体の 4 分の 3 を占め、簡易水道事業はその残り 4 分の 1 である。

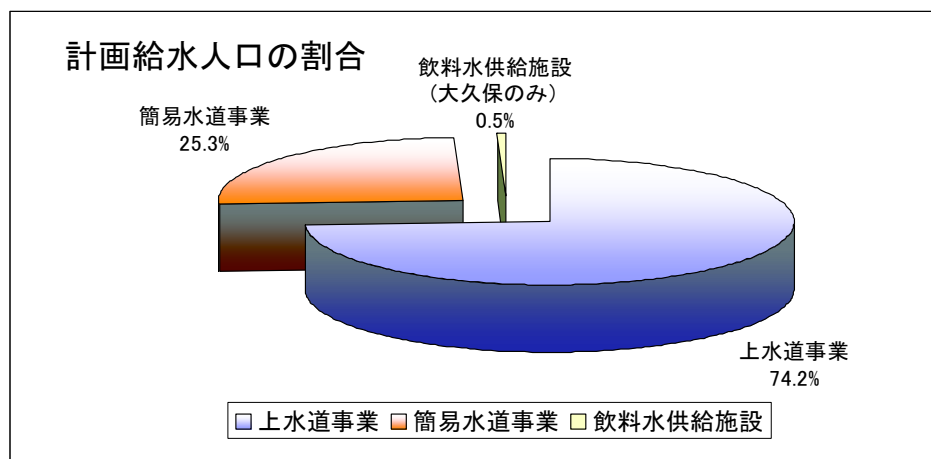


図 2-11 かつらぎ町における計画給水人口の割合

厳密に言えば、水道法における「水道事業」の適用は、101 人以上であり、飲料水供給施設等のように 100 人以下はその他の水道の範疇（はんちゅう）に入るが、大久保飲料水供給施設における実際の給水人口が 100 人を超えており、簡易水道事業見なしとして区分する。